

平成24年度 事業報告

公益財団法人滋賀県陶芸の森

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力、技術力や国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にしながら、陶芸館、信楽産業展示館、創作研修館の三つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

また、平成24年4月には公益財団法人へ移行し、これまで以上に健全で責任のある法人経営に努めた。

I. 県民に親しまれる施設運営に関する事業

【予算 14,271 千円 決算 14,785 千円 ▲514 千円】

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

1. 公園機能の充実

(1) 陶芸作品の野外設置

陶芸の森という施設の名にふさわしくなるよう、創作研修館に滞在した陶芸家がつくった作品4点を園内に設置し、広く県民に芸術作品に触れる機会を拡充した。

・設置作品

「Temple Lamp」マディヴィ・スランマニアン（インド）（平成24年度制作）

「大きな木」岡田 理（平成24年度制作）

「空想の中にいる人Ⅰ」「空想の中にいる人Ⅱ - twins-」吉田達彦（平成24年度制作）

(2) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、より積極的に進め、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施した。

活動実績 計 76 日 参加者数 延べ 167 名

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

信楽焼を抱える滋賀県南部地域の観光拠点として、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種体験講座や陶器市など、様々なレクリエーションイベントを開催し、来園者にとってより魅力的な陶芸の森づくりを進めた。また、甲賀市の観光振興策と連携し、「第1回甲賀市観光メッセ」に出展するなど誘客に努めた。

(1) しがらき体験・しがらき学ノススメ開催状況

①実技講座シリーズ

やきものについて、初心者からベテランまで学ぶことができる実技講座を開催した。

(ア) 手びねりでうつわをつくろう！

- ・「手びねりでうつわをつくろう！食のうつわをつくる」

＜開催日＞6月17日(日) 講師：細川政己 参加者数：11名

普段づかいのできる食器、片口、小鉢、茶碗など自由に作陶し参加者の希望する釉薬をかけ焼成した。

- ・「手びねりでうつわをつくろうークリスマスツリー型ランプシェードをつくる」

＜開催日＞11月25日(日) 講師：津守愛香 参加組数：4組 8名

クリスマスにちなんだランプシェードを制作した。

(イ) 「技法別講座 “ラク焼”の茶碗をつくろう！」

- ・「技法別講座1 “ラク焼”の茶碗をつくろう！」

＜開催日＞5月27日(日) 講師：奥田英山 参加者数：29名

ラク焼の茶碗制作をおこなった。

- ・「技法別講座4 “ラク焼”の茶碗をつくろう！」

＜開催日＞11月17日(土) 講師：奥田英山 参加者数：31名

ラク焼の茶碗制作をおこなった。

(ウ) 「技法別講座 土鍋をつくろう！」

- ・「技法別講座2 近代信楽の技を体験・ミニ火鉢をつくろう！」

(陶芸館特別展 明治・大正の日本陶磁器関連企画)

＜開催日＞8月4日(土) 講師：富増純一 参加者数：14名

ワインクーラーなどにも使えるミニ火鉢にイッチン、染付での絵付けにより加飾した。

- ・「技法別講座3 土鍋をつくろう！」

＜開催日＞11月4日(日) 講師：小牧鉄平 参加者数：10名

最大30cmほどの土鍋を制作した。蓋と本体の合わせ方のコツを学んだ。

(エ) 「技法別講座 イッテコイ窯で作品を焼成しよう！」

- ・「技法別講座5 イッテコイ窯で作品を焼成しよう！」

＜開催日＞12月9日(日) 講師：細川政己 参加者数：15名

酒器など自由に制作した。粉引にも挑戦し、化粧土の掛け方、掛けるタイミングについても学んだ。作品は12月23日(日)にイッテコイ窯で焼成した。

(オ) 「技法別講座 ミニ窯をつくろう！」

- ・「技法別講座6 ミニ窯をつくろう！」

＜開催日＞3月3日(日) 講師：石山哲也 参加者数：14名

ミニ窯を制作した。実際に3月23日(土)24日(日)にミニ窯の焼成体験をした。

②穴窯体験講座の開催

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて焼き締め知識と技術の普及と公開を図った。

- ・「穴窯講座（初級向け）ー自由制作」

＜開催日＞9月16日(日) 講師：大西左朗 参加者数：10名

3kgの粘土を使用し、食器、茶碗など自由に作陶した。今回は特に蓋物の作り方について

も学んだ。作品は11月に穴窯で焼成した。

- ・「穴窯講座（初級向け）－信楽勅旨の小物陶器に挑戦！」

（特別展「しがらきやきⅡ－大西忠左と勅旨の名工たち」関連企画）

＜開催日＞9月22日(土) 講師：大西忠左 参加者数：12名

3kgの粘土を使用し、徳利や酒器づくりをした。徳利の首の作り方などにも挑戦し、11月に穴窯で焼成した。

- ・「穴窯講座（初級向け）－信楽勅旨の小物陶器に挑戦！」

（特別展「しがらきやきⅡ－大西忠左と勅旨の名工たち」関連企画）

- ・「穴窯講座（中級向け）－花入をつくる」

＜開催日＞9月23日(日) 講師：篠原 希 参加者数：15名

5kgの粘土を使用し、花入れを制作した。特に蹲、伊賀風の花入れの作り方も学んだ。作品は11月に穴窯で焼成した。

- ・「穴窯講座（上級向け）－大壺をつくる」

＜開催日＞10月13日(土)・14日(日) 講師：神崎継春 参加者数：16名

大壺を2日間にわたって制作した。10kgの粘土を使用し大作に挑戦し、大壺づくりのコツを学んだ。作品は11月に穴窯で焼成した。

- ・「穴窯講座（初級向け）－干支をつくる」

＜開催日＞10月28日(日) 講師：八幡 満 参加者数：8名

平成25年の干支である巳の置物を制作した。作品は11月に穴窯で焼成した。

③穴窯焼成クラスの開催

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象とし、作品づくりをおこなうだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得もめざし、年度の前半と後半の2回開催した。

- ・「穴窯焼成クラス1」

説明会開催日 6月16日(土)

焼成日 9月13日(木)～17日(月・祝) 窯出し 9月23日(日) 10時～ 参加者数：16名

- ・「穴窯焼成クラス2」

説明会開催日 11月24日(土)

焼成日 3月20日(水)～24日(日) 窯出し 3月30日(土) 10時～ 参加者数：15名

④登り窯講座

信楽焼の伝統のひとつである、登り窯（火袋、一の間）で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及を図った。作品は12月に登り窯の火袋で焼成した。

- ・「登り窯講座（上級向け）－大壺をつくる」

＜開催日＞7月14日(土)・15日(日) 講師：神山直彦 参加者数：14名

10kgの粘土を使用し大作に挑戦し、大壺づくりのコツを学んだ。

- ・「登り窯講座（初級向け）－自由制作」

＜開催日＞7月22日(日) 講師：高橋楽齋 参加者数：11名

3kgの粘土を使用し、食器、茶碗など自由に作陶した。

- ・「登り窯講座（初級向け）－自由制作」

＜開催日＞8月26日(日) 講師：六代 上田直方 参加者数：12名

3kgの粘土を使用し、食器、茶碗など自由に作陶した。手びねりでの小物制作方法を学ん

だ。作品は12月に登り窯で焼成。

※しがらき学ノススメ！ 総講座回数 18回
総参加者数 261名

⑤しがらき体験 しがらき学ノススメ！PR

「しがらき学ノススメ」の講座等について、広く広報をおこない、幅広く参加者を募集するための講座案内用のチラシを制作し、県内の公民館、各地の陶芸教室等に配布し、積極的なPRに努めた。

⑥団体随時受入、大学等教育機関に対するレクチャー実施

5月に京都造形大学通信学科を対象としたレクチャーを実施し、信楽焼や陶芸の森をより理解してもらうきっかけをつくった。

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的なイベント等を開催または、誘致し集客に務めた。

①第6回 信楽作家市 in 陶芸の森の開催

5月の連休に実行委員会形式で「第6回 信楽作家市 in 陶芸の森」を開催した。

陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶器販売の機会を、また、来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ好評を得た。

<開催日時>5月2日(水)~5日(土・祝) 午前9時~午後5時

・出展者、来園者数等

ブース数 134件 (昨年度: 76件)

テント数 67張 (昨年度: 50張)

出展者数 約100名 (昨年度: 約90名)

来園者数 17,156名 (昨年度: 16,975名/4日間 対前年度比+1.1%)

②第17回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

<開催日時>10月6日(土)~8日(月・祝) 午前9時~午後5時(最終日は4時30分)

・出展者、来演者数等

ブース数 141件 (昨年度: 161件)

テント数 72張 (昨年度: 81張)

出展者数 約160名 (昨年度: 約200名)

来園者数 22,036名 (昨年度: 26,253名/3日間 対前年度比-16%)

③わくわくウォーキングの開催

<開催日>12月16日(日) 参加者: 34名

陶芸の森の園内および周辺散策路や観光ミニ冊子「陶芸の森うお~か~」を有効活用し、わくわくウォーキングを実施した。4kmコースと2kmコースを設置し、完歩した方には記念品としてメダルを、また参加者全員にはたぬき汁を提供した。その他グラウンドゴルフや薪投入疑似体験も実施し参加者に楽しんでいただいた。

④平成24年度 陶芸の森フォトコンテスト開催

第一回の開催。秋から冬にかけての陶芸の森を被写体にするこゝで、入園者につなげることと、特選等の作品は陶芸の森PR写真としても活用した。

<募集期間>9月1日(土)~2月28日(木)

被写体 陶芸の森内(自然、建物、人物、作品等)

後援	甲賀市教育委員会	
表彰	特選1点(賞金2万円、賞状)	桑原達夫(彦根市)
	入選3点(賞金1万円、賞状)	東和次(甲賀市)・伴光藏(甲賀市) 柴田聖也(甲賀市)
	佳作5点(賞品)	吉水良雄(甲賀市)・富本武且(甲賀市) 中森敏樹(甲賀市)・中本道雄(甲賀市) 篠原武久(湖南市)

審査員 川口館長、今井一郎(全日本写真連盟会員・滋賀県写真家協会会員)

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストやゲスト・アーティストの作品を、前年度から継続して、琵琶湖ホテル、ピアザ淡海、県立図書館、滋賀県甲賀合同庁舎等に貸し出した。 6箇所 計 28点

(4) ホームページ・バナー広告

陶芸の森ホームページに Web 広告を募集した。

(5) 観光および集客促進のための広報活動

今年度から信楽町観光協会の会員となり職員が理事に就任することで町内での連携を強化した。滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために春と秋の観光シーズンに併せて新聞等の媒体への広告をおこなった。また、甲賀市観光ビジネスメッセに参加し旅行社等に対して団体客の誘致のPR活動をおこなった。さらに県の節電クールライフキャンペーンや「関西文化の日」に参加したほか、近隣4館によるスタンプラリーを実施するなど他館との連携による集客に努めた。また、展覧会や各種講座等、施設の案内などがわかりやすく情報提供できるよう、ホームページのリニューアル充実を図った。

- ・BS-NHK 番組撮影 創作研修室 9月2日(日)
- ・滋賀ロケーションオフィス ドラマ「東京駅忘れ物預かり所」陶芸の森太陽の広場で撮影
- ・関西秋 Walker 信楽特集 陶芸の森星の広場での撮影
- ・近代美術館、陶芸の森、MIHOミュージアム、佐川美術館4館によるスタンプラリー
- ・関西地域振興財団主催 外国特派員プレスツアー 参加記者9名 9月21日(金)
- ・節電クールライフキャンペーンへの参加 7月23日(月)～8月26日(日)
節電広報チラシ持参で、無料で入館
- ・「関西文化の日」への参加 11月17日(土)～18日(日)
- ・甲賀市観光ビジネスメッセへの参加 11月9日(金)

(6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図った。

(7) 収蔵品データベースのウェブ公開

1,200件を超える所蔵作品を、インターネットで広く一般公開した。とくに今年度は検索機能の充実をはかるとともに、著作権者の承諾が得られたものから作品画像を順次公開した。

(8) 信楽焼の魅力紹介ビデオの制作

平成24年度は大西忠左(甲賀市無形文化財技術保持者)の小物造りの技を解説するビデオを制作し、特別展「しがらきやきⅡ-大西忠左と勅旨の名工たち」の会期中に会場内で上映した。

3. 施設の管理

【予算	一般管理、施設維持管理	計 151,440 千円	信楽産業展示館管理	18,540 千円
決算	一般管理、施設維持管理	計 146,857 千円	信楽産業展示館管理	18,576 千円
	一般管理、施設維持管理	計 4,583 千円	信楽産業展示館管理	▲36 千円】

陶芸の森が、地域の産業、文化および観光の拠点施設として、また来園者にとってもやすらぎ感のある施設として利用が図られるよう維持管理に努めた。また各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に努めた。

- (1) 「滋賀県緊急雇用創出特別推進事業」として職員2名を雇用し、園内の植栽作業等をおこなう魅力ある、公園づくりに努めた。
- (2) 県において、節電対策費が急きょ予算化されたことにあわせ、陶芸の森では陶芸館の展示室を含めたスポットライトのLED化を図った。
- (3) 公益財団法人滋賀県緑化推進会よりサルスベリ4本とイチョウ2本の寄贈を受け、園内に植樹した。

II. 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

【予算 34,727 千円 決算 43,933 千円 ▲9,206 千円】

これまでも時代の動きをいち早くとらえながら、産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。陶芸館では、幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を企画し発信することを目指した。

平成24年度は、特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」と題して、著名な芸術家たちの陶芸に迫った。夏の特別展「明治・大正時代の日本陶磁 - 産業と工芸美術」では、国内4館の共同研究企画として、欧米で一世を風靡した明治・大正の日本陶磁が一堂に会する展覧会を開催した。また秋の特別展「しがらきやきⅡ - 大西忠左と勅旨の名工たち」では、甲賀市無形文化財技術保持者の大西忠左を中心に、信楽・勅旨に息づく小物造りの伝統の技を紹介した。春の特別展「フランス印象派の陶磁器 1866-1886 ジャポニスムの成熟」では、フランスの印象派の陶磁器やジャポニスムの陶芸を全国巡回に先駆けて当館にて展示した。これまで紹介することのなかった新しい視点からメッセージを発信し、多くの人に陶芸の森と信楽、そしてやきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールした。

来園者の少ない冬季（12月下旬～2月末）には陶芸館を休館し、収蔵品の状態チェック、陶芸に関する調査、普及活動、展示設備点検にも力を入れた。

- (1) 特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」

＜開催期間＞4月1日(日)～7月6日(金)（平成23年度からの継続事業）

ジョアン・ミロやパブロ・ピカソらによる陶芸作品は戦後の陶芸に刺激を与え、1950年代に世界各地で開花する造形的な新しい陶芸への後押しとなった。岡本太郎や横尾忠則など、信楽で陶板制作し、また陶芸の森でも陶芸家だけでなく画家や彫刻家らによる陶芸制作も行われてきた。何が彼らを陶芸に駆り立てるのか。本展では、画家や彫刻家らが土に魅せられ、陶芸に挑戦した作品のほか、現代の陶芸の中で陶芸とアートが関連しながら成熟してきた現代の陶芸の一断面を、日本やアメリカなどの陶芸シーンから紹介した。本展覧会は、当館開催の後、平成25年度に岐阜県現代陶芸美術館、兵庫陶芸美術館に巡回する。

入館者数 11,222 人（1 日平均 133 人）

関連事業

ギャラリートーク 4 月 30 日（月・祝）（参加者数 18 名）
5 月 4 日（金・祝）（参加者数 22 名）
5 月 20 日（日）（参加者数 21 名）
アーティスト・トーク イケムラ レイコ 4 月 8 日（日）（参加者数 45 名）
きむら としろう じんじん 4 月 22 日（日）（参加者数 40 名）
野点（のだて）きむら としろう じんじん その 1 信楽 ACT
4 月 15 日（日）（参加者数約 150 名、スタッフ 15 名）
野点（のだて）きむら としろう じんじん その 2 信楽駅近く
4 月 21 日（土）（参加者数約 70 名、スタッフ 15 名）
アーティスト・トーク 舟越 桂
6 月 3 日（日）（参加者数 250 名）

(2) 特別展「明治・大正時代の日本陶磁－産業と工芸美術－」

<開催期間>7 月 14 日(土)～8 月 26 日(日)

明治時代に入り、日本政府が推し進めた殖産興業・輸出振興政策を背景として、欧米で一大ブームを巻き起こした日本陶磁。本展では、近年の最新研究成果をふまえながら、当時の日本各地で制作された陶磁器を一堂に会し、明治時代から大正時代にかけて発展していった日本陶磁の世界を紹介した。なお当展覧会は、財団法人地域創造の<平成 24 年度公立美術館巡回支援事業>の助成金を受け、はつかいち美術ギャラリー、滋賀県立陶芸の森、瀬戸市美術館、茨城県陶芸美術館の 4 館による共同企画巡回展として開催した。

入館者数 5,511 名（1 日平均 129 名）

関連事業

総合開会式（於：はつかいち美術ギャラリー）
5 月 19 日（土）（参加者数 50 名）
ギャラリートーク 7 月 15 日（日）（参加者数 25 名）
8 月 19 日（日）（参加者数 35 名）
リレー・ギャラリートーク
7 月 29 日（日）（参加者数 30 名）
一般向け体験講座 8 月 4 日（土）（参加者数 14 名）
子ども向け体験講座 7 月 21 日（土）（参加者数 24 名）
7 月 28 日（土）（参加者数 32 名）
瀬戸市美術館とのボランティア交流会
8 月 24 日（金）（参加者数 33 名）

(3) 特別展「しがらきやきⅡ－大西忠左と勅旨の名工たち」

<開催期間>9 月 6 日(木)～12 月 16 日(日)

近世の信楽において、小杉碗や神仏具、灯明具などで活況をみせた勅旨の小物造り。甲賀市無形文化財技術保持者・大西忠左は、その伝統を現代に受け継ぐ陶芸家のひとりである。本展では、大西の作陶を回顧するとともに、小物造りの伝統を継承する勅旨のつくり手たちの作品を紹介した。

なお、本展覧会は芸術文化振興基金の助成金交付対象事業である。

入館者数 12,055名（1日平均137名）

関連事業

開会式・内覧会	9月5日（水）	（参加者数125名）
ギャラリートーク	9月16日（日）	（参加者数約20名）
	10月21日（日）	（参加者数約10名）
	11月18日（日）	（参加者数約20名）
ボランティア研修	9月22日（土・祝）・25日（火）、10月13日（土）・14日（日） （対象者5名）	
特別鑑賞塾	11月9日（金） 11月11日（日）	（参加者20名）
体験講座	「信楽・勅旨の小物陶器に挑戦！」	
	9月22日（土・祝）	（参加者数12名）

(4) 特別展「フランス印象派の陶磁器 1866-1886 ジャポニスムの成熟」

<開催期間>3月9日（土）～3月31日（日）

1870年代までは豪華な磁器製のテーブルウェアメーカーとして名を馳せていたアビランド社が、それまでの上質な透明感のある生地とは異なる、テラコッタによる当時はまだ正統と認められていなかった印象派スタイルの絵付けや、当時一世を風靡していたジャポニスムの絵柄をモチーフとした。本展では、アビランドの作品を通して、ジャポニスムの成熟と印象派の画家たちの新しい陶芸への取り組みなど、新しい色彩やテクスチャーの探求に果敢に取り組んだ作品の数々を紹介した。

入館者数 1,390名（1日平均69名）

関連事業

ギャラリートーク 3月30日（土） （参加者数17名）

(5) 収蔵品収集（管理）事業

陶芸館では、収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を2年に1回開催し、収蔵候補作品について審議している。なお、価格評価については、外部の有識者で構成される収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

危機管理への対策も計画的に実施し、盗難及び地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、収蔵作品の安全確保と保全に種々の対策を講じている。また、今後も継続して収蔵品（収蔵庫）の点検整理作業を実施し、作品の点検と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備も行う。

2月14日（木） 展示ケースの定期点検を実施

2月20日（水） 高所作業台の定期点検を実施

3月中旬～下旬 収蔵庫整理、収蔵品保管用木製箱の制作並びに対象作品の点検

(6) 陶磁ネットワーク会議関連

平成20年度に結成された国内8館の陶磁器専門美術館・博物館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館の交流や情報交換を深め、共同企画展の立案・開催、共同研究、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力などを目的とする。

平成24年度は兵庫陶芸美術館で本会議が開催され、節電対策について各館の対策報告や意見交換が行われた。また平成25年度開催予定の共同企画展「日本やきもの美術館の旅」（仮称）の開催準備のための小委員会会議に出席した。

<加盟館>

滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、愛知県陶磁資料館、岐阜県現代陶芸美術館、福井県陶芸館、茨城県陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館

本会議 7月24日(火)、25日(水) 於：兵庫陶芸美術館 (参加者 全8館21名)

共同企画展「日本やきもの美術館の旅」(仮称)

小委員会(滋賀県立陶芸の森、岐阜県現代陶芸美術館、兵庫陶芸美術館、茨城県陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館)

6月26日(火)、7月24日(火)、2月16日(土)

(7) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる館内唯一の無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、入館者に理解して戴く情報発信の場として活用してきた。平成24年度も県内若手中堅作家の展覧会、アーティスト・イン・レジデンスや普及啓発事業の成果展を開催し、陶芸の森の独自性をより明確に内外に示した。

<内容及び開催期間>

①「シリーズ湖国の陶芸家ー現代へのつくり手達の眼差し」

内容：滋賀の中堅・若手陶芸家の新作を紹介。彼らのやきもの観や胎動する湖国のやきもの像を探りながら、県内陶芸家の最新情報の収集と発信を試みる。秋に2回2名の陶芸家を紹介した。

(7)「竹村智之ー〈虹〉自然の光と時の瞬き」

<開催期間>10月6日(土)~11月7日(水)

関連事業 オープニング&アーティスト・トーク 10月6日(土) (参加者数約20名)

ワークショップ&アーティスト・トーク 10月27日(土) (参加者数約20名)

(4)「小牧鉄平ー窯の情景、集積するイメージ」

<開催期間>11月10日(土)~12月16日(日)

関連事業 オープニング&アーティスト・トーク 11月10日(土) (参加者数約15名)

②「土の造形 シーサーまつり」(世界にひとつの宝物づくり実行委員会共催)

内容：小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信した。

<開催期間>7月14日(土)~8月26日(日)

③「アーティスト・イン・レジデンス企画展」

内容：平成23・24年度にゲスト・アーティストが創作研修館で滞在制作した成果を発表した。

(7)「アグネス・フス展ーらせんがつくる無限の形」

<開催期間>9月6日(木)~10月3日(水)

関連事業 オープニング&アーティスト・トーク 9月6日(木) (参加者数約20名)

(4)「吉村敏治ースパイラル 繰り返す思考」

<開催期間>3月9日(土)~3月31日(日)

関連事業 オープニング&アーティスト・トーク 3月9日(土) (参加者数約20名)

(8) 博物館実習

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで、関西圏を中心に21大学・119名の学生を実習生として受け入れてきた。今年度も10名程度の受け入れを想定し、

6月上旬まで受付したが、大学側の受講基準が厳しくなったこと、また附属博物館による開講などの事情で、申し入れがなく実施していない。

(9) 特別鑑賞塾

陶芸館では、収蔵品を手にとって、学芸員による解説を聞きながら鑑賞し、作品をより身近に感じてもらい、また技法や作者に近づける取り組みとして、特別鑑賞塾を有料で開催した。

＜開催期間＞ 第1 1回：6月15日(金)、6月17日(日) (2日間4回で参加者21名)

第1 2回：11月9日(金)、11月11日(日) (2日間4回で参加者20名)

(10) カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売した。

2. 創作事業

【予算 8,889 千円 決算 10,095 千円 ▲1,206 千円】

(1) アーティスト・イン・レジデンス事業

創作事業では、平成4年以降、48ヶ国から905名の国内外の陶芸家、美術家を受け入れ、或いは招いてのアーティスト・イン・レジデンス事業をおこなっており、やきものをテーマにした文化交流の場として定着してきている。

この「やきものをテーマとした交流」を一般の方も含めて認知、促進させるために「創作研修館オープン・スタジオ」を年間8回開催し、交流の場とした。

また、陶芸文化の普及を図るために、陶芸をテーマにしたレクチャーをおこない、資料閲覧室を活用し、釉薬や粘土のテストピースなど情報提供するとともに、アーティスト・イン・レジデンス事業のイベント、成果についてホームページで発信した。

さらに、登り窯周辺にアーティスト・イン・レジデンス事業で来館する陶芸家たちが制作に使える「ビードロ等の窯変をとるための薪窯」を築窯し、また、一般の来園者に対して、窯についてわかりやすい解説付きの案内板等を設置することで、陶芸文化の普及を図るため「窯の広場」づくりをおこなった。

①スタジオ・アーティストの受け入れ

鈴木由衣(愛知県 4/1)(3/17~3/31)、岡田理(群馬県 4/1~10/31)、鈴木麻起子(滋賀県 4/1~8/31)(10/3~3/31)、小出ナオキ(千葉県 4/1~9/30)、宿谷由美恵(東京都 4/1~6/5)、久木田和隆(4/1~6/7)、桑名紗衣子(東京都 4/3~7/20)、メーガン・ゲイツ(アメリカ 4/1~6/18)、呉昊(中華人民共和国 4/10~7/3)、ニコル・ガリオッティ(アメリカ 5/15~6/15)、沈喬楓(中華民国 6/19~9/10)、石井真知子(6/26~10/31)、マディヴィ・サブ라마ニン(インド 6/26~7/16)、マリエル・ファンデンベルフ(オランダ 6/23~8/24)、蕭錦嫻(イギリス・香港 6/5~9/4)、フローレンス・ルマン(フランス 8/1~31)、ピアー・グルター(ドイツ 8/3~12/20)、ランダ・ライネ・ルネ(アメリカ 9/1~11/27)、玄尚哲(信楽町 大韓民国 9/1~10/31)、永井文子(埼玉県 10/3~12/5)、吉田達彦(大阪府 10/2~3/9)、アン・マリー・ケルコム(ベルギー・フランス 10/2~11/30)、フランス・ゴノー(カナダ 11/1~30)、アライダ・ヴァン・アルメロ(アメリカ 11/1~30)、林其勻(中華民国 12/1~2/1)、李佳蓉(中華民国 12/1~2/1)、山本康未(12/1~2/28)、クリスティーナ・ワックスヴァイラー(フランス 1/30~3/5)、ベス・カーヴァナー・スティチャー(アメリカ 1/9~3/14)、アレクサンドロ・ガッロ(イタリア 1/9~3/16)、村田彩(信楽町 1/4~2/28)、杉浦康益(神奈川県 2/7~3/4)、植葉香澄(京都府 2/11~3/31)、デレック・ラーセン(京都府 2/11~3/31)、アン・マリーショーン(フランス 2/28~3/31)、五十嵐瞳

(2/26~3/26)、李岱容 (中華民國 3/4~3/31)

計 延べ 39 名 (内訳: 日本 17 名 海外 22 名)

* 鈴木由衣、鈴木麻起子の 2 名については、2 回ずつの来館であり計 4 回で積算した。

○ スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等

◎陶芸の森での展覧会

- ・「ヒトヒラノカタチ-Shape of a Fragment」 宿谷由美恵
＜開催期間＞5 月 30 日(水)~6 月 5 日(火) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館ギャラリー
- ・「信楽 progression」 メーガン・ゲイツ
＜開催期間＞6 月 1 日(金)~10 日(日) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「虹に向かって 飛び上がる」 ニコル・グリオッティ
＜開催期間＞6 月 12 日(火)~14 日(木) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「姿雅羅器」 呉 昊
＜開催期間＞6 月 17 日(日)~24 日(日) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「Sensations in Shigaraki しがらきで 感じたこと 想ったこと」 簫 錦嫺
＜開催期間＞8 月 25 日(土)~9 月 2 日(日) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「繋ガリ カラ 衝突へ-Piecing Together a Collision」 ランダ・ルネ・ルーエン
＜開催期間＞11 月 20 日(火)~25 日(日) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「Voile de mer parle à la terre. 海原の帆 大地との語らい」 アン・マリー・ケルコム
＜開催期間＞11 月 23 日(金・祝)~25 日(日) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館ギャラリー
- ・「Big in Japan」 ピア・グリュート
＜開催期間＞12 月 8 日(土)~12 月 15 日(土) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「タヌキズ に 出会って」 林其勻、李佳蓉
＜開催期間＞1 月 27 日(日)~30 日(水) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館
- ・「夢の中、心の中。」 吉田達彦
＜開催期間＞2 月 28 日(木)~3 月 6 日(水) ＜開催場所＞陶芸の森創作研修館

◎陶芸の森以外での展覧会

- ・「静物」グウィン・ピゴット
＜開催期間＞4 月 13 日(金)~16 日(月) ＜開催場所＞「信楽 ACT 会場二本丸長屋」
- ・「やきものの現在-土から成るかたち PART X」 黒川徹
＜開催期間＞6 月 16 日(土)~8 月 5 日(日) ＜開催場所＞ギャラリーヴォイス、多治見市
- ・「カルペ・ディエム 花として今日を生きる」 イケムラ・レイコ
＜開催期間＞6 月 30 日(土)~9 月 23 日(日) ＜開催場所＞豊田市美術館
- ・「何があっても/何もなくても」 岡田理
＜開催期間＞7 月 30 日(月)~9 月 1 日(土) ＜開催場所＞TKG エディションズ京都
- ・「Editable Region - Except that table」 桑名紗衣子
＜開催期間＞9 月 1 日(土)~22 日(土・祝) ＜開催場所＞Ohshima Fine Art, 東京
- ・「ゴーザ壺」 鈴木由衣
＜開催期間＞10 月 6 日(土)~27 日(土) ＜開催場所＞STANDING PINE, 名古屋
- ・「sololoquy」 玄尚哲
＜開催期間＞10 月 13 日(土)~10 月 27 日(土) ＜開催場所＞Gallery TAO, 東京

- ・「銀のほのお」 イケムラ・レイコ
 <開催期間>11月2日(金)~12月8日(土) <開催場所>シューゴアーツ, 東京
- ・「玄尚哲展」 玄尚哲
 <開催期間>11月23日(金・祝)~12月5日(水) <開催場所>GALLERY 陶園、信楽町
- ・「Flavor of Nature」 桑田卓郎
 <開催期間>1月8日(火)~2月23日(土) <開催場所>SALON 94 BOERY, ニューヨーク
- ・「別の行き先」 フランス・ゴノー
 <開催期間>1月17日(木)~3月27日(水) <開催場所>カナダ大使館 東京
- ・“Melting Points” 桑名紗衣子
 <開催期間>2月9日(土)~3月16日(土) <開催場所>HARMAS GALLERY, 東京
- ・「村田彩個展」 村田彩
 <開催期間>2月13日(水)~24日(日) <開催場所>彩鳳堂画廊、東京
- ・「Read me a Story, Daddy」 小出ナオキ
 <開催期間>3月2日(土)~4月6日(土) <開催場所>小山登美夫ギャラリー、東京

②ゲスト・アーティストの招聘

平成24年度は、6名のゲスト・アーティスト（うち2名は公募枠）を招聘した。

招聘プログラムについては、一部公募制を取り入れ若手の陶芸家の登竜門として位置づけられるよう努めた。

- ・イケムラ・レイコ（ドイツ在住、ベルリン美術大学教授）

4月と10月に来館大型作品「USAGI」の制作をおこなった。平成25年春に完成の予定である。また4月8日に「炎と星—土のこころと輪郭のないかたちづくりについて」と題してレクチャーをオープン・スタジオの一環としておこなった。

- ・黒川 徹（京都府在住、公募）

5月から9月にかけて滞在し大型のオブジェ数点を制作した。6月17日に「かたちの定理—構築のしくみ・思索するかたち」と題してレクチャーをオープン・スタジオの一環としておこなった。

- ・桑田卓郎（岐阜県在住、公募）

9月から3月にかけて数回にわたって滞在し、オブジェ、茶碗など多数の作品を制作した「桑田卓郎の仕事」と題したレクチャーを11月25日にオープン・スタジオの一環としておこなった。

- ・神農 巖（滋賀県在住、日本工芸会正会員）

12月から3月にかけて、来館、堆磁の手法で大皿、大壺など10点あまりを制作した。

1月27日に、「神農巖が自作を語る」と題してレクチャーをオープン・スタジオの一環としておこなった。

- ・ギャレット・マスターソン（アメリカ在住、リーディリー大学教授）

12月に来館し、手びねりに型押し技法を使いオブジェの制作をおこなった。再度平成25年5月に来館し制作を終了、またレクチャーをおこなう予定。

- ・ジャネット・マンスフィールド（オーストラリア在住、前国際陶芸アカデミー会長）

ジャネット・マンスフィールド女史については、当初秋の招聘を検討していたが、体調不良のため次年度に延期となり、2月に病状悪化で亡くなったことから招聘することができなかった。

- ・^{こばやしゆうちょう}小林勇超（信楽町在住、日本工芸会正会員）

1月から3月にかけて招聘し、大鉢、大壺などを10点あまり制作した。3月17日にレクチャーをオープン・スタジオの一環としておこなった。

(2) 国内外の機関との連携強化等

陶芸の森と関わりのあるフランスの芸術支援団体であるアトリエ・ダールから4名の陶芸家をスタジオ・アーティストとして受け入れた。

(3) 地域での情報発信拠点として

①創作研修館オープン・スタジオの開催

地場産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、年間8回、スタジオを一般に公開し、またそれにあわせてゲスト・アーティストなど滞在作家によるレクチャーやワークショップを開催した。

第1回 レクチャー&ワークショップ

「炎と星—土のこころと輪郭のないかたちづくりについて」

イケムラ・レイコ（現代美術家、ベルリン芸術大学教授）

<開催日>4月8日(日) 参加者：95名

第2回 きむら としろう じんじん アーティスト・トーク

<開催日>4月22日(日) 参加者：50名

第3回 「かたちの定理—構築のしくみ・思索するかたち」黒川 徹

<開催日>6月17日(日) 参加者：26名

第4回 テーマ：「陶芸の森で制作する作家たちと陶芸を志す高校生 信楽での共同制作」

制作テーマ：「破壊と再構築 Deconstruction & Construction」

<開催日>9月2日(日) 参加者：信楽高校生を含め7名

*このワークショップの様子は2月にNHK、BS放送で「千人のきずな」のミニ番組として放送された。

第5回 桑田卓郎氏によるアーティスト・トーク「桑田卓郎の仕事」

<開催日>11月25日(日) 参加者：28名

第6回 「神農巖が自作を語る」神農巖（日本工芸会正会員）

<開催日>1月27日(日) 参加者：42名

第7回 「THE TANUKI—たぬき・狸・タヌキ」

10月に信楽町内で開催が予定されている、「第2回信楽まちなか芸術祭」のメインイベントである「THE TANUKI—たぬき・狸・タヌキ」の説明会を兼ねたワークショップとして、タヌキの置物の型抜きの実演をおこなった。

<開催日>3月10日(日) 参加者：35名

第8回 レクチャー&ワークショップ

「自作を語る」小林勇超（甲賀市指定無形文化財信楽焼保持者、日本工芸会正会員）

<開催日>3月17日(日) 参加者：32名

②陶芸の森レクチャーシリーズ

今回は、伝統工芸をテーマに据え11月4日に秀明文化財団主催の講演会を陶芸の森で開催することに協力したほか、1月27日に神農巖氏による講演会を開催し、伝統工芸の現状を紹介した。

- ・「近代陶芸における公募展と顕彰制度」榎本徹（岐阜県現代陶芸美術館長）

<開催日>11月4日(日) 参加者:35名

・「神農巖が自作を語る」神農巖(日本工芸会正会員)

<開催日>1月27日(日) 参加者:42名

③やきもの技術相談員制度および情報閲覧室の活用

やきもの技術相談員制度を活用し、窯の広場で築窯する小型の薪窯について助言と技術指導をしてもらいスムーズな窯の築窯につなげた。

④信楽焼の担い手たちとの交流事業

スタジオ・アーティストで受け入れた五十嵐瞳(2/26~3/26)女史の制作について、地元の業界の技術を活用し制作にあたった。信楽焼のメーカーの協力を得、技術面での助言を受けながら制作することでメーカーの感性を磨くきっかけをつくり業界の活性化につながった。

3. 子どもやきもの交流事業

【予算5,535千円 決算6,833千円 ▲1,298千円】

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行なった。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得に努めた。

(1) 「本物と出合うー総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

年々、陶芸の森の「本物と出合うー総合的学習プログラム事業」への参加校が増えてきている。陶芸の素晴らしさや、陶芸の森を広めるために学校への出張授業、学校が来園して行う来園プログラムを継続し、さらに美術館の事業として内容を吟味しながら進めていく。「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携をとりつつ、本事業では、新規のプログラムの開拓などを中心に担当する。これにより、信楽へ来て来館するきっかけづくりにつながる来園プログラムについても、同様に継続して行った。

また陶芸館ギャラリーを活用した、連携授業の成果展を開催し、学校だけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員につなげるものとした。

来園見学 参加者 842名(9件)

出張授業 参加者 5,212名(75件)

ねんどと遊ぶ 参加者 286名(5件)

(2) 夏季研修会ー美術館との総合的学習のあり方を探る

世界にひとつの宝物づくり事業と連携

<開催日>8月3日(金) 参加者:20名

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、参加者が実際に本物に触れるなど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための、美術館の役割を考えた。この研修会は、MIHOミュージアムと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成した。事業の運営は、世界にひとつの宝物づくり事業と連携をとりながら、両者の広報活動として行った。

なお、この研修会に併せて連携授業等で制作した子どもの作品を夏休み企画としてギャラリーで展示発表した。

Ⅲ. 産業の振興に関する事業

【予算 1,154 千円 決算 1,068 千円 86 千円】

信楽焼の持っている伝統技術を将来に継承し、人材育成を図ること、いわば将来の発展への足場強化を目的に、信楽高校デザイン科の外部研修の受け入れと、信楽陶器工業協同組合青年部を対象にした登り窯焼成事業を実施した。

また、信楽産地の新製品開発をデザインの側面から支援することを目的に、次の3つの事業をおこなった。信楽焼関係企業に、デザイン提供を図り支援していく「デザイン活性化事業」、新しい動物の置物の開発を目的に、製品モデルの公募をおこなう、「デザインコンペ アニマル・フィギュア 動物の置物」事業、併せて、「既存製品をベースにし、加飾による付加価値付けを既存製品におこない提案を行う」事業をおこなった。

幅の広い信楽焼の製品に対して、多くの商品提案をおこない、また、その結果を信楽産業展示館で常設的に展示することで業界に対しての発信をおこなった。

(1) 信楽高等学校デザイン科外部研修受け入れ

「つくられるものの公共性に対する認識」と「個人の自由な表現」の両立という、デザインにおけるバランス感覚を養うため滋賀県立信楽高等学校のデザイン科2年生を対象に、3月15日（金）に陶芸の森にて実習をおこない、大原薫氏の指導のもとに信楽の産業製品である陶製のテーブル、椅子に加飾をした。

その後乾燥、施釉、焼成を経て窯出しを第4駐車場南側広場に設置予定。

参加者等	絵付け実習（2年生）	20名
	園内見学（1年生）	33名

(2) 登り窯焼成事業

信楽陶器工業協同組合青年部を対象に、かつて信楽の製陶業の隆盛を支えた施釉陶器の技術、登り窯焼成技術の継承を目的に、施釉した作品を一の間に詰め焼成した。火袋から一の間までで実際に焼成を担当することで、焼成技術の継承、また、登り窯への理解を深めることが出来た。また、講座の参加者、スタジオ・アーティストも焼成に参加し体験することで、信楽伝統の登り窯への理解を深めることができた。火袋には講座参加者の作品を詰め焼成した。

<焼成日程>窯詰め 12月7日（金）～9日（日）

焼成 12月11日（火）9時～12月14日（金）1時

窯だし 12月23日（日）10時～12時

<参加者数>工組青年部員	19名
スタジオ・アーティスト	5名
講座参加者	37名
グループでの参加	1組

(3) デザイン活性化事業

①デザイン面からの支援による新商品の開発促進

フィンランドのデザイナー、ペッカ・パイカリ氏と株式会社松庄と陶芸の森のコラボによる洋風の「土鍋」を開発した。

②デザインコンペ 「アニマル・フィギュア 動物の置物」コンテスト実施

陶芸の森では、現代の生活にマッチしたモダンでユニークな、「動物の置物」の開発を目的に、製品モデルの公募をおこなった。優れたモデルについては、賞を授与し、入賞作品については、陶芸の森で試作をおこない商品化を試みる。

募集期間：6月26日(火)～12月28日(金)

後援：信楽陶器卸商業協同組合、信楽陶器工業協同組合

応募点数：9点

賞付：金賞 小野真由（滋賀県）

銀賞 石坂祐子（東京都）

銅賞 河島佳奈（滋賀県）

審査員：川口雄司（滋賀県立陶芸の森館長）

奥田立博（信楽陶器卸商業協同組合 カタログ担当理事）

杉山道夫（滋賀県立陶芸の森 創作研修課課長心得）

鈎 真一（滋賀県立陶芸の森 学芸員）

吉村敏治（陶芸家 創作研修館 ゲスト・アーティスト）

③既存製品をベースにした加飾による新製品の開発

信楽焼のエクステリア商品の一つである「かえる」をベースにした、鉢カバー、睡蓮鉢を若手の人気作家である村田彩、植葉香澄のふたりが加飾をおこない新しい商品を開発した。

(4) 信楽産業展示館の活用

①デザイン加飾によるテーブルセットを10月6日(土)から10月26日(金)までの信楽陶器総合展に展示し、新しい信楽焼の紹介に努めた。

②「信楽焼産業総合展」（主催：信楽陶器卸商業協同組合）での展示

11月3日(土)から3月31日(日)まで信楽焼産業総合展の中で1ブースを借り、デザイン活性化事業で過去に製造した製品（試作品含む）を展示しデザインの提案に努めた。

③信楽産業展示館内のレストランとは、「しがらきやきⅡ 大西忠左と勅旨の名工たち」（9月6日(木)～12月16日(日)）にあわせて、コラボをおこない、展覧会開催期間中に限り、地元しがらきの名産をつかった抹茶わらびもちの提供をしてもらった。

IV. 企画事業

【予算 4,003 千円 決算 4,365 千円 ▲362 千円】

1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開した。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行った。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努めた。

販売数：5,922 点

2. その他

(1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。